

花時計

などの体制批判へと向

「武装した警察官がバスから続々と降りてくる。こんな光景を見るのは初めてだ」

14日、中国大連市の政府庁舎前にデモ隊が集まった。政府は大量の治安部隊を投入し、両者がにらみ合う場面も見られたという。たまたま現場に居合わせた中国人の友人が様子を伝えてくれた。

デモ隊が求めたのは、有毒物質排出の恐れがある化学工場の市外移転。朝方に始まり、矛先は次第に政治腐敗

福岡 都市圏

九大転出進む東区箱崎で討論



宮崎公会堂で、箱崎のまちづくりを活発に議論した

まちづくりの好機に

住民と記者が知恵を出し合い、地域課題の解決策を探る西日本新聞社の「地域と語ろう隊」は16日夜、九州大学のキャンパス転出が進む福岡市東区箱崎で、まちづくりをテーマに討論した。大学が去った後の街はどうなるのか。自分たちは今、何をすべきなのか。出席者は「明日」を見つめて思いをぶつけ、活発な意見を交わした。

「人の輪広げ人材発掘」

「歴史や文化は財産」



- さん(箱崎公民館主事)▽
- 船越(旧姓・戸部田) 希代さん(戸部田はきもの店)
- ▽武田裕之さん(一般社団法人・九大OB相談の研事務局長)▽斎藤政雄さん(箱崎まちづくり放談会副

討論は、25年後の都市像を見据える福岡市の「新ビジョン」策定に合わせて企画。まちづくりの拠点である箱崎公会堂を会場に、箱崎次雄さん(箱崎まちづくり委員会会長)▽糸長紀子

理事長の5人が出席した。2005年に始まった九大箱崎キャンパスの転出は、19年度完了予定。跡地の売却先や用途は決まっていない。大学移転について、出席者は異口同音に「意外なほど動揺や反発はない」



歴史を学びながら箱崎宮に通じる通りを歩く出席者たち

箱崎地区は学生用下宿やアパート、店舗の廃業が相次ぎ、代わって集合住宅が建つ。新たな住民の増加と、交流の難しさも話題となった。糸長さんは、子どもを通じたつながりが強い地

と発言。大学と地元の結び付きがかつてほど強くない、と現状を分析した。とはいえ、九大転出が地域にもたらす影響は大きい。斎藤さんは、地元と調和する跡地利用を促すためにも「商店街や住民が箱崎の歴史や文化を踏まえた、外部の人に分かりやすい街の色を出すべきだ」と提言した。

出席者は討論に先立って街歩きを実施。これを受けて、議論は九大と並ぶ「顔」である箱崎宮と地域活動の連携、商店街振興や安心安全のための道づくりにも及んだ。全員が「大学移転を後ろ向きにとらえず、街を再構築するチャンスにしよう。25年後のために、いま考えて行動しよう」と思いを一つにし、討論を締めくくった。

箱崎さんは「この討論を通して、もっといろんな人の話を聞きたいと思った。自分から一歩踏み出す必要を感じさせられた」と新たなまちづくりの意欲を語った。

出席者は討論に先立って街歩きを実施。これを受けて、議論は九大と並ぶ「顔」である箱崎宮と地域活動の連携、商店街振興や安心安全のための道づくりにも及んだ。全員が「大学移転を後ろ向きにとらえず、街を再構築するチャンスにしよう。25年後のために、いま考えて行動しよう」と思いを一つにし、討論を締めくくった。

区の特徴を生かし「親同伴の行事をする」と人の輪が広がる。地道にやっていくと必ず実る」と話した。

商店街で代々店を営む船越さんも「自発的に、面白がってまちづくりに加わる人を探したい」と人材発掘の大切さを強調し、既存の組織に新人を取り込むのではなく、新たな集まりをつくる方法もあると提案。武田さんが「育ててもらった箱崎の地に思い入れがある九大OBは多い。連携できるのでは」と応じた。